令和６年度仙台市若林区まちづくり活動助成事業
質疑応答及び評価委員長総評

《報告の流れ》
1 団体 10 分で発表。1 団体ごとに評価委員による質疑をし、最後に評価委員長から総評を得る。

あらい七夕プロジェクト
あらいフェローズ

Ｑ　台風の影響で「あらい七夕夏まつり」が中止となったが、別の日に開催しようという意見はなかったか。

Ａ　会場の荒井東１号公園を確保するためには１か月以上前からの事前予約が必要であり、今回は中止としたが、メンバーからは予備日を設けるべきと意見があった。また、暑い日が多い季節なので、他の会場も検討すべきとの意見もあがった。

Ｑ　東北少年院の子供たちが参加した経緯を教えていただきたい。

Ａ　メンバーから少年院の子供たちが関われる機会がないかという意見があり、七夕制作を一緒にできないかお声がけしたことがきっかけである。七夕制作以外の地域活動の中で、力仕事も多く、そういった部分でも協力を得ている。

Ｑ　荒井東地区の活動に関わっている町内会は多数あると思うが、各町内会の夏まつりが「あらい七夕夏まつり」に集約されているのか。

Ａ　各町内会の子供会中心にそれぞれ夏まつりは実施していて、「あらい七夕夏まつり」が地域のおまつりを集約しているということはない。あらい七夕夏まつりは、地域の大きなイベントとして認識していただいているようである。

Ｑ　まちづくり活動助成金の他に町内会や企業からの協賛金などの収入はあるのか。

Ａ　１年目に荒井東１号公園という大きな場所で夏まつりをしたことで、活動を認識してもらうようになり、少しづつ協賛を増やしてくださる企業もある。今年は昨年よりも協賛していただける企業が５件増え、事業の理解が得られるよう次年度以降も継続して取り組みたい。

Ｑ　七郷／荒井のミニコミ誌「あらっＥ　第 109 号」で協力企業が掲載されているが、これは資金提供とは別の協力ということでよろしいか。

Ａ　あらいフェローズ全体の事業に対して協賛金をいただいた企業を掲載している。収支決算書に記載しているのは、まちづくり活動助成対象事業の七夕制作に対して要した経費のみについて記載している。

仙臺屋台を活用した「沿岸部の魅力を拡張・発信」するプロジェクト

株式会社めぐみキッチン

Ｑ　屋台トークについて、参加人数の想定が各６名であるが、本イベントの開催は一般的に公開していないのか。

Ａ　昨年は公開して料理も振る舞っていたが、来年度以降も続けるということを考えると費用もかけれないので、収録するということをメインに開催している。それと、昨年より機材も省力化している。

Ｑ　荒浜から離れて暮らしている方々へ広報すれば、興味を持つ方も多くいると思うが、発信の工夫、動画の広報活動はどのように行っているか。

Ａ　現状あまり行っていないので、今後検討していきたい。

Ｑ　事業の課題として、個人の負担を軽減し開催可否のハードルを下げるなど「省力化」を挙げているが、外部の方に貸出しすることも屋台の活用という意味では大事だと思うが、それについての考えや方針があれば教えていただきたい。

Ａ　昨年、企業から買取の打診もあったが、値段の折り合いが付かなかった。屋台を保存していくにはお金がかかるが、気にかけてくれる方が多くいるので、積極的に屋台を貸出ししながら多くの方々に活用して欲しい。

Ｑ　これまでの活動を見ていく中で、めぐみキッチンがこの屋台を使っているからこそ、荒浜のコミュニティの再形成や活性化に繋がると感じている。この屋台があれば、地域のコミュニティの起爆剤になり得ると感じており、是非そのような仕組み作りを屋台を貸し出すという手法から検討していただきたい。

Ａ　屋台出張イベントのような手法も考えているところだが、今後の活用を検討していきたい。

ＡＷＥＳＯＭＥＰＯＲＴプロジェクト
オーサム・カフェ

Ｑ　開所日が毎週火曜日なのは会場の都合か。それから、１日あたりどれくらいの時間、利用可能にしているのか。

Ａ　荒井にある親子の居場所「クローバー」の開所日が火曜日と木曜日であり、そちらと合わせて火曜日とした。利用可能時間は午前１１時から午後３時までとしているが、夕方近くまでいる方が多い。

Ｑ　個人情報の制約があり、学校との連携は難しいと思うが、チラシの配布などを学校側へ依頼する際、学校の関係者と情報の共有はできているか。

Ａ　仕事の都合上、校長先生や教頭先生に直接お話しする機会がある中で、まず、小学校については、直接配ることはできないので、保健室やチラシを置くスペースに置かせていただいている。中学校も保健室の他に、学校に行きづらいと感じている子供たちが行く部屋が別途設けられているので、その担当の先生に話をしつつ、チラシの配布をお願いしている。

Ｑ　学校の職員が活動の場を見学に来ることはあるか。

Ａ　これまで見学に来たことはないが、いつでも見学は可能である。

Ｑ　学校の教員が見学に行くことで、逆に悪い影響を与えてしまうことも懸念されるが、実際に地域の中でこういった活動の取り組みが認知されてきているということを学校側も目で見て理解することが必要だと思う。学校の先生もおそらくすごく悩んでいると思うので、学校側と関係性を深めながら進めていって欲しい。

Ｑ　事業の概要や来年度の目標でも循環型の繋がりを築いていくと記載されているが、具体的に循環型とはどのような取り組みで、来年度はどういうことをするか、教えていただきたい。

Ａ　まず、この居場所づくりはまちづくりの一環として行っており、誰が支援者で誰が支援を受ける側とは、自分達は考えておらず、関わる人たちがみんなで行きやすい環境を作ることが大事で、それを「循環」と捉えている。そのベースになるのが、運営側として必要なものを用意することである。例えば、交流の場づくりであれば、最初は団体のメンバーが場づくりをしていくが、参加者の中で「自分はこれならできる」という方が出てくればお手伝いをお願いしたり、その都度状況に応じて支援する側、される側が自然な形でできていく。そして、今通っている若者たちが、今はサポートを受ける側になっているけれど、次に同じように悩んでいる子供たちが来た時に、その人たちを支えるサポーターになれるような環境を継続していくことが重要であり、循環型を言い換えるのであれば、人が人を支えるお互い様の関係づくりだと思っている。

Ｑ　利用している子供たちはどの地域から来ているのか。

Ａ　荒井地区の身近な子供たちに限らず、親子の居場所クローバーの利用者など、色々なところから来ている。

意見　まちづくり活動助成の事業ではあるが、福祉や教育的側面もあるとも思いつつ、まちづくりの視点でこのプロジェクトを見ると非常に興味深い活動である。カフェとしての気軽さや雰囲気を全面に生かした取り組みでもあるので、カフェを居場所に転用するように、地域にあるものを生かすという意味でも、本モデルはとても面白い。他地区でもおそらくニーズは高いと思うので、荒井地区に限らず、モデル化していって、他の地域でも活かせるよう、ノウハウを貯めて欲しい。

仙台若林みんなのマルシェと大道芸

東北パフォーマンスネットワーク

Ｑ　２日間のイベントで来場者数はどれくらいか。

Ａ　企画の１つとして、シールラリーを行ったが、景品交換した人数が１日あたり５００名弱いた。

Ｑ　イベントの広報はどのように行っていたか。

Ａ　SNS を活用したり、児童館や保育園、幼稚園など、１か所ずつ回ってチラシを配布した。回っている中で意見として多かったのが、１１月の第２週、第３週は学校行事が多い週ということが日程を決めてから分かったので、行きたいけど行けないという声が多かったのは残念であった。

意見 来場者の少なさは出足の遅れもあったかもしれない。また、アクアイグニス仙台でイベントを行なうのであれば、入り口付近に案内表示などが必要であったように感じた。それと、若林区のまちづくりを考えた時に、貴団体が児童館を回って大道芸の楽しさを教えている活動を拡充した方が、より目的は達成できるのではと感じた。

Ｑ　会議費や機材レンタル費として、株式会社トリプルイーに支出しているが、貴団体とはどのような関係性があるのか。

Ａ　株式会社トリプルイーは私が代表の会社である。大道芸イベントの開催に際しては、必要な機材があり、他の会社でレンタルするよりも安い金額で借りることができる。会社として所有している物なので、無償というわけにはいかないので、支出として計上した。

Ｑ　会議費もトリプルイーに支出しているが、料金規定はあるか。

Ａ　スタジオ兼事務所があり、メンバーとの会議は集合体だけでなくオンラインでもそちらの場所を使用した。ホームページでも料金表を記載している。ラジオの収録も行った。

Ｑ　アクアイグニス仙台にも会場使用料を支払っているが、大道芸のイベントと防災フェアを共催にしたいという打診はアクアイグニス仙台からあったのか。

Ａ　大道芸のイベントを１１月で予定していたが、空いている日にちが９日と１０日しかなく、防災イベントと共催であれば会場を貸していただけるとの話があった。アクアイグニス仙台で開催する他のイベントでも、申込団体から会場使用料をいただいているようだ。

評価副委員長（委員長）から総評（コメント）

１年間の活動、大変お疲れ様でした。４団体の報告を受けて、皆様のご苦労、それからご努力に対して仙台市長に代わりまして御礼を申し上げる。

世界的な潮流から見ると、大変難しい時代に入ってきたという感じがしている。それは分断の時代というか、東西冷戦が終わり、EU が誕生し、そして、自由で公正な社会の枠組み作りが急速に進んだ時代があったが、近年では、ナショナリズムの台頭や独裁的な政治がまかり通るなど、これまでの流れとは逆に振り子が触れているような、そういう時代になってきた。

そのような時代の流れの中で、民主主義や市民活動が弱体化しているのではないか懸念されており、将来に不安を抱く一方で、皆様のような市民活動は世界の情勢に左右されず、地域の住民においては非常に重要な場であり、皆さんの活動自体が希望を持てる場である。

今回でまちづくりの助成金から卒業される２団体、あらいフェローズ、それからめぐみキッチンは、是非この３年間の経験を基に、さらに羽ばたいていただきたい。

あらいフェローズについては、様々な住民を巻き込んで活動が非常に大きくなっている点を高く評価したい。最初はよちよち歩きから始まった活動が、繋がりの輪が広がり、まちづくりに非常に大きな力を発揮していると感じている。１つ提案だが、七夕を作って飾るだけではなく、七夕をもっと深く知り、そして、住民の方々と共有することで更に素晴らしい取り組みになる。卸町に鳴海屋紙商事という会社があり、七夕について高い知見を有している。以前、宮町でも講演をお願いしたことがあるが、参加者から好評を得た。「七夕を知る」ということを地域の方々と共有できれば更に素晴らしい取り組みになる。

めぐみキッチンついては、めぐみキッチンだけの活動に留まるのではなくて、活動の幅を広げ、若林区から仙台市に屋台文化を復活できないかと期待している。屋台クラスターのようなものができれば、それを目当てに若林に足を運んでもらい、若林の食を楽しみ、そして復興に繋げていくこともできるのではないか。是非、仲間を増やしながら活動の幅を広げて欲しい。

それから、今回初めて採択された２団体、オーサム・カフェ、東北パフォーマンスネットワークついて、２年目の活動に期待をしたい。

オーサム・カフェについては、私自身不登校児童の支援に携わっているが、子どもたちが学校を卒業した後どうなるのか、家族も非常に心配をしている。仙台市では、不登校を経験した子どもたちに職場体験を行っているが、企業側もその子供たちを理解していく必要がある。子供たちが企業の戦力となっていけるよう、企業の理解を深め、企業とのネットワーク作りにも力を入れていただきたい。

東北パフォーマンスネットワークについては、非常にユニークな活動であり、今後も市民との関係づくりや更に踏み込んだ企画を期待したい。

本日はご報告をいただき感謝申し上げる。今後の活躍を祈念し、総評に変えさせていただきたい。